

観光振興へ「バード」を語る

東京 29日にシンポジウム

イギリスの女性旅行家イザベラ・バードが本県などに残した足取りを全国に発信し観光振興に生かそうと、シンポジウム「百三十年目の日本奥地紀行 はるかなる道 イザベラ・バードを語る」が二十九日午後一時から、東京・代官山のヒルサイドウエストで開かれる。東京のまちづくりグループ「元氣・まちネット」(矢口正武代表、戸沢村出身)が企画した。

バードは置賜盆地を「アジアのアルカディア(桃源郷)」とたたえるなど本県にとって重要な足跡を残した。一八七八(明治十一年)に本県などを旅してから今年で百三十年の節目を迎えることを記念して開催する。

「まちネット」は新たな観光資源の発掘や地域活性化を目指して活動している。昨年、新潟県境の小国町から真室川町まで、バードが旅した道を徒歩や自転車で踏査。その後、一般参加者を募ったツアーも展開した。

シンポジウムでは、赤坂憲雄東北芸術工科大学院長ら

が、バードの著書「日本奥地紀行」などについて講演するほか、矢口代表が「まちネット」の取り組みの成果を報告する。引き続き、パネルディスカッションを行う。参加費は一般三千円、大学生以下とまちネット会員は二千円。定員七十人。締め切りは二十二日。問い合わせはまちネット 03(38829)4691。

